

設立10年で120冊余を出版した  
南方新社(鹿児島市)代表

むこ はら よし たか  
向 原 祥 隆 さん(47)

# ひと

鹿児島を中心に地域を見ず  
えた本を、ひと月に1冊のペ  
ースで出版してきた。

奄美のキリスト教徒強制改  
宗に迫る「聖堂の日の丸」、  
島津武士団に支配された隼人  
の実態を探った「薩摩民衆支  
配の構造」、長崎・諫早湾  
拓事業に異を唱えた「諫早湾  
ムツゴロウ騒動記」……。

儲かっているとまではい  
かないが、「まずは鹿児島県民  
180万人を念頭に」121  
冊、計43万部になった。

会社設立は94年。京都在卒  
業後、13年勤めた東京の広告  
出版会社を辞め、ふらりと故  
郷に戻った翌年だった。

本屋をのぞくと99%が東京  
発。鹿児島の本はガイドブッ  
クくらいしかない。近くのき

れいな小川は？ 霧島の草花  
は？ この地とアジアの交流  
史は？ 自分も知らない。

「南を向いていこう」。そう  
した気持ちを社名に込めた。

「地域」にも、こだわりの  
ある。先日、九州新幹線の  
「導入物語」の原稿が持ち込  
まれたが、出版しなかった。  
「都市」の価値観の押しつけ  
にしか見えなかった。

そんな仕事ぶりを鹿児島大  
の平井一臣教授(政治学)は  
「日本、世界の『地域』が抱  
える共通の問題を提示してい  
る」と評する。県内の市町村  
合併の現状を批判的に描いた  
本に東北から注文がくる。

7人の従業員とめざすのは  
鹿児島の、地域の自立。「ア  
ホな国は相手にするな。それ  
がキーワードだな」

文 星井 麻紀  
写真 山本 正樹

